

# プログラム

1日目:9月14日(土)

## 第2会場

9:00-12:00 教育委員会主催勉強会「災害時における母乳育児」  
総合司会: 龜山 千里(教育委員会主催勉強会 実行委員長/  
総合病院土浦協同病院 NICU)

### 【基調講演】

「災害時における母乳育児支援—母乳分泌の支援も含めて」  
奥 起久子(東京北医療センター小児科/国際認定ラクテーション・コンサルタント)

「液体ミルク導入に際しての動きとその使用について」  
本郷 寛子(母と子の育児支援ネットワーク代表)

### 【シンポジウム】

「実際の事例からの検証 情報発信の立場から」  
三宅理恵子(ラ・レーチェ・リーグ日本リーダー)

「実際の事例からの検証 被災地で母子支援を実践した立場から」  
上吉原良実(独立行政法人国立病院機構本部 DMAT 事務局 災害医療課/  
小児救急看護認定看護師)

「実際の事例からの検証 被災地の小児周産期リエゾンの立場から」  
三谷 裕介(金沢大学附属病院 周産母子センター)

## 第2会場

12:10-13:10 ランチョンセミナー1「母体・児の健康を守るために大切なこと:  
鉄欠乏性貧血の観点からも」  
座長: 笠井 靖代(日本赤十字社医療センター 産婦人科)  
演者: 入山 高行(東京大学医学部附属病院 女性診療科・産科)  
共催: ゼリア新薬工業株式会社

## 第1会場

13:20-13:30 開会式

## 第1会場

13:30-14:30 特別講演「少子高齢化と女性の労働参加」

座長: 中島 淳(日本赤十字社医療センター 院長)

演者: 清家 篤(日本赤十字社社長/慶應義塾学事顧問/  
慶應義塾大学名誉教授)

## 第1会場

14:40-16:10 シンポジウム1「現代の女性にとっての母乳育児」

座長: 馬目 裕子(日本赤十字社医療センター 看護部)

滝 元宏(東京都立病院機構 東京都立荏原病院 小児科)

「母国を離れて子育て—経験者として、サポーターとして—」

湯井真紀子(インターナショナル SOS ジャパン株式会社  
シニアコーディネイティングドクター)

「ケア提供者からみた現代女性の母乳育児」

重松 環奈(日本赤十字社医療センター 周産期外来)

「産婦人科女性医師自身の子育て アンケート調査から」

津村 志穂(日本赤十字社医療センター 産婦人科)

「親・大学生の声から授乳の情報を考える」

河合 蘭(出産ジャーナリスト)

## 第1会場

16:20-17:20 教育講演「オキシトシンは愛情ホルモンか？」

座長: 宮内 彰人(日本赤十字社医療センター 周産母子・小児センター)

演者: 尾仲 達史(自治医科大学 生理学講座 神経脳生理学部門)

2日目:9月15日(日)

**第2会場**

8:00—9:00 評議員会・理事会

**第2会場**

9:10—9:50 モーニングセミナー「先天性代謝異常症と母乳」

座長:宮内 彰人(日本赤十字社医療センター 周産母子・小児センター)

演者:高野 智圭(日本大学医学部 病態病理学系微生物学分野)

共催:ミヤリサン製薬株式会社

**第1会場**

10:00—11:30 シンポジウム2「早産児と母乳育児」

座長:中尾 厚(日本赤十字社医療センター 新生児科)

宮沢 篤生(昭和大学医学部小児科学講座)

「ドナーミルクの現状と将来」

谷 有貴(奈良県立医科大学 小児科)

「人乳由来母乳強化物質の実現に向けて」

水野 克己(昭和大学医学部 小児科学講座)

「NICUにおける自母乳哺育の現状と向上に向けての取り組み」

中尾 厚(日本赤十字社医療センター 新生児科)

「オキシリピンと早産児母乳栄養」

菅沼 広樹(順天堂大学 小児科)

**第1会場**

11:40—12:10 会員総会

**第2会場**

12:20—13:20 ランチョンセミナー2「今どきの不妊診療事情

～2人目不妊にもスポットを当てて～

座長:宮内 彰人(日本赤十字社医療センター 周産母子・小児センター)

演者:藤原 敏博(医療法人社団鳳凰会 フェニックス アート クリニック)

共催:あすか製薬株式会社

## 第1会場

13:30-14:15 一般演題【セッション1】 O1-1~O1-5

座長:吉野 和男(吉野産婦人科医院 産婦人科)

亀山 千里(総合病院土浦協同病院 総合周産期母子医療センター)

O1-1:当センター 産後ケア入院における授乳・育児支援

廣瀬 孝子(日本赤十字社医療センター 5B 周産母子ユニット)

O1-2:看護師・助産師の母親の母乳育児確立に関する調査

黒須 英雄(愛賛会浜田病院 小児科)

O1-3:妊娠中に化学療法を施行し、分娩後も一定期間母乳育児が行えた  
乳癌合併妊娠

石井 千晶(日本赤十字社医療センター 産婦人科)

O1-4:遅発型 B 群溶血性連鎖球菌の経母乳感染が疑われた超低出生体重児例

岡野 和哉(順天堂医院 臨床研修センター)

O1-5:母乳育児支援に関する父親と母親のニーズ

倉田 真衣(名古屋市立大学大学院看護学研究科博士前期課程)

## 第2会場

13:30-14:15 一般演題【セッション2】 O2-1~O2-5

座長:松田 恭寿(まつだこどもクリニック)

赤井 智子(日本赤十字社医療センター)

O2-1:保育所に乳児を預ける母親の母乳育児支援に対する思い

臼井 淳美(大東文化大学スポーツ・健康科学部看護学科)

O2-2:保育所における母乳育児支援の実態調査

臼井 淳美(大東文化大学スポーツ・健康科学部看護学科)

O2-3:早産をした母親の DMER

(不快性射乳反射=Dysphoric Milk Ejection Reflex)の体験

太田 歩美(前日本赤十字社医療センター/あゆみ助産院)

O2-4:母体救命搬送症例に対する早期母子接触・授乳支援とその母乳育児に  
対する効果

岡村 聡(日本赤十字社医療センター 産婦人科)

- O2-5: ICT を活用した妊娠期の母乳育児支援プログラムの開発に向けて  
～妊娠期の女性の母乳育児の希望と自己効力感について  
稲田 千晴(日本赤十字看護大学大学院国際保健助産学専攻)

## 第1会場

14:15-15:00 一般演題【セッション3】 O3-1～O3-5

座長: 東海林宏道(順天堂大学医学部 小児科学講座)

齋藤 英子(日本赤十字看護大学大学院国際保健助産学専攻)

- O3-1: 母乳育児推進施設における新生児高ビリルビン血症再入院治療例の検討  
吉尾 博之(医療法人サクリニック小児科)

- O3-2: 黄疸予測アルゴリズムの日本人新生児における有用性  
～出生後早期の哺乳がビリルビン値に影響するか～  
内海江美子(香川大学医学系研究科看護学専攻助産学コース)

- O3-3: 当センターにおける出産後の母親を対象とした母乳バンクに対する  
質問票調査  
鶴川 寿子(日本赤十字社医療センター 新生児科)

- O3-4: A 病院における産後の母児に対する看護行為と看護時間から見た  
ケアの現状  
西川 早織(滋賀医科大学医学部附属病院 母子女性診療科)

- O3-5: 短期母乳栄養を選択した HTLV-1 キャリアである母親の体験  
山森佳奈子(日本赤十字社医療センター 看護部)

## 第2会場

14:15-15:00 一般演題【セッション4】 O4-1～O4-4

座長: 滝 元宏(東京都立病院機構 東京都立荏原病院 小児科)

細川さつき(日本赤十字社医療センター 産婦人科)

- O4-1: 母乳中ラクトフェリン測定法に関する比較検討  
－ELISA 法と生化学自動分析装置を用いたラテックス凝集法－  
田中未央里(一般財団法人日本財団母乳バンク)

- O4-2: 2019 年以降の乳児の栄養方法と液体ミルクの備蓄にかかる費用の変化  
名西 恵子(東京大学大学院医学系研究科国際保健学専攻)

O4-3:入院中の補足は、その後6か月までの母乳育児に影響を及ぼすか？  
～エリアグラフを用いた検討～  
高野 友花(国立国際医療研究センター 国際医療協力局)

O4-4:母乳の凍結融解の繰り返しによる成分変化の検討  
松浦 凧沙(一般財団法人日本財団母乳バンク/  
お茶の水女子大学大学院 ライフサイエンス専攻)

## 第1会場

15:10-16:40 シンポジウム3「母乳育児に関する医学的諸問題」  
座長:笠井 靖代(日本赤十字社医療センター 第二産婦人科)  
田中 奈美(つくばセントラル病院 産婦人科)

「妊産婦の高年齢化と摂食障害」  
笠井 靖代(日本赤十字社医療センター 第二産婦人科)

「妊娠関連乳癌」  
荻谷 朗子(日本赤十字社医療センター 乳腺外科)

「HTLV-1 東京プログラムとHTLV-1 キャリアの母乳育児支援の充実に向けた取り組み」  
関沢 明彦(昭和大学医学部 産婦人科学講座)

「妊産婦のメンタルヘルス」  
竹内 崇(東京医科歯科大学 大学院医歯学総合研究科  
精神行動医科学分野 リエゾン精神医学・精神腫瘍学担当)

## 第1会場

16:40-16:50 優秀演題表彰式

16:50-16:55 次期会長挨拶  
次期会長:田中 奈美(つくばセントラル病院 産婦人科 部長)

16:55-17:00 閉会式